

私立文系・地方の難化

私立大学の入試結果が出そろってくる時期となりました。また、国公立大学の倍率も出そろいました。高3生はその結果や数字に一喜一憂していることでしょう。まず今年の受験生に伝えたいことは、「無理に現役にこだわるな」ということです。もちろん浪人生活は苦しいと思いますが、今年のような無茶苦茶な状況で「受かる大学」を探すのは得策ではありません。自分が受ける大学の最低ラインを引き、「合格する」ことだけを求めないことです。

高2生・高1生は、私立を狙うのか国公立を狙うのかを早く決めてしましましょう。一昔前は地方国公立が「駅弁大学」と呼ばれ、人気もレベルも低下していましたが、今年はその状況が覆っています。とにかく「現役安定志向」がトレンドです。早期に必要な科目数を確定させ、特化型でいくのかバランス型で行くのかを決めるのが合格への近道です。〔金子祐太〕

2月・3月のおもなスケジュール		
2/22	土	2019年度授業終了
23	日	自習室開室(12:00~18:00)
24~		公立入試直前ゼミ
3/4	水	2020年度開講
12	木	公立一般入試日
13	金	新高1やる気UP講座【特別編】
14	土	新高1保護者会(13:00~14:30)
15	日	愛すスケート
17	火	新高1激励会
19	木	公立一般合格発表日
20	金	春分の日【授業あり】 新高2保護者会(13:00~14:30)
21	土	新高3保護者会(13:00~14:30)
22	日	自習室開室(12:00~18:00)
24	火	3月度授業終了
25~		春期講習スタート

合格と不合格

先日、野村克也氏が逝去されました。野村氏が監督・解説をされるときによく口にしていたのが「勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし」という言葉です。理由なく勝つことはあっても、理由なく負けることはないという意味です。

これはスポーツの世界の言葉ですが、受験に関しても同じことが言えます。負けたとき(不合格・回し合格のとき)にどれだけその結果と真摯に向き合えるか。それによって先の成長が決まってくるでしょう。常に望まぬ結果の原因を分析し、二度と起こらぬように対策を行う。この姿勢こそが大切です。

受験だけではなく、全ての物事に対してこの姿勢で臨んでほしいです。〔金子祐太〕



公立高一一般入試まであとわずか。自習室の緊張度もピークです！

2月の“自習王”決定!

- ★中学生の部
 - 中3 児玉 七海 170.0時間
 - 中2 吉本 宅磨 48.2時間
- ★高校生の部
 - 高3 谷川 彰希 161.2時間

公立高校推薦入試での激励

今年も祥雲館高校前にて、受験生を出迎え、一人一人の受験生を見送りながら、昨年の受験から一年がたったことを実感しました。

今年の特進館学院の生徒は、時間に余裕をもって、全員が受験会場へと向かい、素敵な笑顔と挨拶で入試の望む姿がとても印象的でした。合格発表当日も満面の笑顔で出迎えられることを期待しています。〔澤井伸一〕

3月分 **2月27日**
学費の振替 (木)

高校部学習管理システム費(年間分)を今月振替分と合算してお振替させていただきます。金額の詳細につきましては明細をご確認ください。

“プログラミング”の本当の意味

特進館学院は、人間力を育てる進学塾でありたいと考えています。物事を冷静に分析し、正しく判断する「意思決定能力」。円滑にコミュニケーションを行い、人を動かす「コンピテンシー能力」。そして、自分の考えを明確に伝える「プレゼンテーション能力」。さらに未来を先読みして行動する「段取り能力」。加えて、「語学力とITスキル」です。

昨今、『プログラミング』という言葉が脚光を浴びています。プログラミングというと、「パソコンなどを使って、ロボットなどを動かすこと」などという風に捉えがちですが、それはあくまで狭い意味で、本来の意味は、「ゴールに到達するまでの道筋を一つひとつ予測しながら、計画的に道を歩むこと」であるということ。先日、尾木直樹さんの講演で学びました。つまり、人間力のひとつである「段取りする力」こそが、プログラミングそのものなのです。たとえば、明日が予定のない休日だとします。愚かな人は、何の計画も立てずに夜ふかしの挙句、昼過ぎまで寝て、せっかくの休日を台無しにします。できる人は、「明日は久々の休みだから〇時に起きて家事を済ませ、〇〇に行って〇〇を買い、〇〇さんと会って〇時に帰り…」という風に、一日を最大限に活かすための計画を立てて行動します。その後の両者の、充実度の違いは歴然ですよね。〔北村昌弘〕



代表北村の独り言…

新型コロナウイルスの報道に過剰反応し、憂鬱な日々を過ごす人が急増。でも、インフルエンザが一番コワイことをご存知ですか？日本でも毎年1万人が死亡！だから、手洗いの過激励行を！

編集後記

我が家では小学生と中学生の娘が、卒業式での歌の練習を始めました。大きな声で朗々と歌うので、感傷的な気持ちにはならないのですが、年度の変り目、季節の変り目を意識させられます。子どもは、身近なおにいさん、おねえさんが卒業して遠いところに行くことに意識が向いていて、自分自身もひとつ進級するということには頓着していないようですが…。せっかくの節目、まわりに目を向け、何か自分にプラスになるものを感じ取ってくださるのになぁと思う今日この頃です。